

【軒丸瓦】

今回の調査で出土した瓦は軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦の4種類です。九十九坊廃寺跡の軒丸瓦は「よんようたんべんれんげもん四葉単弁蓮華文」という花弁が4枚のものが特徴です。



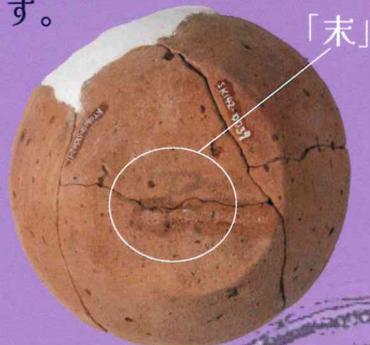
出土した軒丸瓦
同じ花弁4枚でも文様に違いがあります。

【墨書土器】

「大内」や「弘」のほか、君津市では初めて「末」という文字が書かれた墨書土器が出土しました。

古代の小糸川流域は上総国のすえぐん「周淮郡」と呼ばれ、「末」の文字は、この郡名を示すものと考えられます。九十九坊廃寺跡と周淮郡の関係性を示す貴重な資料となりました。

末



「末」と書かれた墨書土器

埋もれた古代寺院

—九十九坊廃寺跡 発掘調査速報—

八重原公民館 11月8日(土)・9日(日)
君津市立中央図書館 11月18日(火)～12月21日(日)

写真・資料 君津市教育委員会

編集・発行 君津市教育委員会生涯学習文化課

令和7年11月8日発行

令和7年度出土遺物公開展

埋もれた古代寺院

くじゅうくぼうはいじあと
—九十九坊廃寺跡 発掘調査速報—

君津市の八重原地区に所在する九十九坊廃寺跡は、古くから存在が知られており、三重塔などの建物があったことがわかっています。塔跡を含む遺跡の一部が『九十九坊廃寺址』として千葉県指定史跡となっています。

君津市教育委員会では、その隣接地で令和5・6年度に発掘調査を行い、寺院に関する建物跡や大量の瓦、すゐ墨で文字が書かれた墨書土器ぼくしよなどが発見されました。

発掘調査の成果から、新たにわかった九十九坊廃寺跡を読み解きます。

三重塔跡の基壇



発掘調査で検出した建物基壇
建物を水平にするため瓦を敷き詰めた痕跡が確認できます。



約2.8tの瓦や土器が出土した土坑がありました。基壇きだんに使う土を採るために掘った大きな土坑を利用して、瓦や土器を廃棄したと考えられます。今回の調査では、墨書土器はすべてこの土坑から出土しました。



検出した土坑
(約12m×9mの楕円形、深さ1.2m)

断面の写真
大量の瓦が廃棄されています。



今回の調査で6棟の建物跡が見つかりました。2棟は基壇きだんがあり、他の4棟は掘立柱建物跡ほったてばしらたてものあとです。

基壇がある建物跡には、瓦敷きがされたものがあり、建物を水平にし、建物の基礎を強くするための土木工事の痕跡が確認できます。断面の写真を見ると何層にも土を重ねて、その中に瓦を敷いているのがわかります。

これらの建物跡は、寺院に關係する建物であったと考えられます。



基壇内の瓦敷きの様子
平らになるように工夫しているのがわかります。



基壇の断面
ローム土(黄色)と黒色土を何層にも重ねています。



検出した掘立柱建物跡
人が入っている穴が柱の穴です。